

「環境まちづくりプロジェクト」キックオフミーティング議事録

日時：平成 27 年 11 月 7 日(土)15:00～17:00

場所：ブロッサムカフェ 3F ルーム A

出席者：竹原，久，中口，山崎，鈴木，道岡，越智，佐野，濱砂，沖中，松井，麓，高野，柳原，
田中，今西，中田，野田，江口，新井，高橋，岡本，上崎，河上

1.

理工学部竹原教授より、「環境まちづくりプロジェクト」の趣旨説明が行われた（別添資料参照）。
学内研究助成金交付申請書の提出の予定であることが説明され，申請書作成のために参加教員の申請経費，研究実績等の提出の要請があった（11月20日まで）。

2.

出席者全員からそれぞれ，所属，研究内容，プロジェクトへの抱負等などの紹介があった（以下，
発言の概略，敬称略）。

中口

専門は水環境・大気環境。

山崎

福島放射能汚染の調査，ガソリンスタンドの跡地利用に関わる汚染調査・判断のためのプロトコル作成に従事。

鈴木

専門は海洋－大気間の運動量・熱・CO₂の交換過程・乱流の観測など。

道岡

専門は流体力学。電中研で14年間勤務。発電所からの排ガス拡散シミュレーション，都市の排熱・排ガスの移動のシミュレーションなどに従事。

越智

専門は情報，教育工学（eラーニング），身体動作の解析など。車いすのトレーニング支援，環境データのオープン化，防災教育・訓練システムなどに取り組む。

佐野

専門は大気環境計測，大気粒子の観測，衛星データの利用。38号館屋上・能登で観測。大気環境の指標化・シミュレーションにより工事による大気への影響などに取り組む。

濱砂

専門はデータ解析，クラスタリング理論，ビッグデータの取り扱い。

沖中

専門は材料力学，連続体の破壊に関するシミュレーション・実験。

松井

専門は微生物生態学，遺伝子の伝播。遺伝子組み換え生物利用と住民・行政の意向に取り組む。

麓

専門は建設材料学。コンクリートのリサイクル，多孔質コンクリートの環境影響に取り組む。

高野

専門は水文学，環境の計測．

柳原

専門は交通計画，バリアフリー，ユニバーサルデザインなど．交通バリアフリー計画の策定などに取り組む．

田中

住民主体のまちづくりのためのフィールドワークに取り組む．竹田城エリアの急激な観光地化に伴う住民組織の調整手法などを検討．

今西

専門は植物の保全生態学．ベトナムでのフィールドワーク，里山・田の保全に取り組む．

中田

専門は全球気候モデルによるエアロゾルの気候影響の調査．近畿圏のエアロゾルについて，衛星データ・地上データの複合的な利用に取り組む．

野田

専門は流体力学，風工学．建物周りの空気の流れ，それによる破壊，そのリスクの評価に取り組む．

江口

専門は水族環境学，物質循環．養殖で用いられる餌による有機物の付加とその環境影響（奄美大島でのクロマグロ養殖など），クロマグロ・サンゴ・人間の共生に取り組む．

新井

専門は交通経済学．離島航路の維持，南大阪の公共交通（コミュニティバス），その利用に関する住民の意識調査に取り組む．

高橋

専門は交通経済学．バス・ロジスティックなどが対象．

岡本

20年間ゼネコンで設計業務に従事．設計の実践（E³など），建築物のみならずライフデザイン・キャリアデザインなど広い意味でのデザインに取り組む．授業ではPBL，商品開発などを実施．

上崎

専門は行政学．大阪都構想などが対象．文献調査が中心．

河上

専門は都市経済学．地方創世のための地域産業資源の利用などに取り組む．

3．

竹原教授の趣旨説明を受けて、「環境まちづくりプロジェクト」の実施に関して質疑応答を行い，以下のような質疑応答・意見があった（カッコ内は発言者）．

・プロジェクトの進行について

プロジェクトを進めるにあたって，竹原教授より説明のあったクラスターごとに研究を進めるのか（野田）．

プロジェクトの最終的な成果の形は，すべてのクラスターがまとまった形での成果となるのか，クラスターごとになるのか．申請時に成果がバラバラになるような印象を与えた場合，個々の研究課題と受け取られる可能性がある（岡本）．

研究を進めるにあたってはクラスターごとに行い，それらの成果を持ち寄って，最終的に一つの成

果としてまとめる方針である（久）。

・プロジェクトのメンバーについて

竹原教授の趣旨説明で紹介された教員以外の教員を、プロジェクトに加えてもよいか（江口）。
参加希望の教員は加えても構わない（竹原）。

・プロジェクトの対象地域について

プロジェクトの対象となる具体的な地域はどこになるのか（越智）

基本的に大阪府内。行政からの研究に関わるオファーがあれば、可能であれば受ける。また、大阪府内の市町村の職員をミーティング・研究活動に呼ぶこともあり得る（久）。

・その他

学生や大学院生も含めた形でプロジェクトを進め、教育にも役立てる手法が望ましい（佐野）。

4.

「環境まちづくりプロジェクト」推進に当たって基調講演として、総合社会学部の久教授より「21世紀の都市・まちづくり」と題して講演が行われた（別添資料参照）。

記録者：高野 保英

プロジェクト代表者：竹原 幸生

プロジェクト代表者：久 隆浩